

平成27年度 学校自己評価表

次の質問について、A～Dの該当する欄に○印をつけて下さい。 A：よくあてはまる B：概ねあてはまる C：あまりあてはまらない D：全くあてはまらない					
質問事項		A	B	C	D
I 学校運営に関するもの					
1	【学びの場としての安全教育の推進】 ①危機管理意識の高揚、安全教育・安全活動等の取組み ②個人情報漏洩等の防止策の推進		○		
2	【環境整備の推進】 ①業務の効率化（ワンアクション・ワントライ運動の推進） ②施設設備等の環境整備の充実		○		
3	【広報活動の充実】 ①本校ならではの取組の充実と発信 ②ホームページの定期的更新		○		
4	【学力向上の推進（知育）】 ①教師全員の研究授業を実施し授業力向上の推進 ②ものづくり教育の推進とそれに係る職員研修の推進 ③資格・検定取得の推進 ④基礎学力の向上を推進させる組織の構築・研究・実践		○		
5	【キャリア教育の推進（ライフキャリア・ワークキャリア）】 ①総合的な学習の時間・特別活動を活用したキャリア教育の充実 ②進路面談指導の充実 ③就職先・進学先開拓の推進（第1希望進路先の保障）	○			
6	【こころを育てる教育の推進（徳育）】 ①差別をしない許さない人権尊重の精神を育成 ②道徳教育の推進、いじめや暴力等防止と迅速な対応 ③集団行動・徳育・マナー等の指導の充実		○		
7	【体を育てる教育の推進（体育）】 ①食育・健康・安全に関する教育の推進 ②部活動の推進		○		
8	【人材育成】 ①職員研修会の充実 ②校外研修会への参加		○		
<p>学校経営方針の大きな目標を、「授業に熱心」「部活に熱心」「資格に熱心」の3本柱とし、全職員・全生徒が「チーム都工」を合い言葉に、「未来を切り拓く、心豊かでたくましい人材の育成」を目指して、上記8つの項目を重点的に取り組んできた。</p> <p>【項目1について】</p> <p>◎今年度1月末までの生徒の交通事故発生件数19件 17件が自転車事故で、幸いなことに骨折等の重大事故は発生していない。ただ、そのうち1件は対歩行者の事故であり、場合によっては重大な事故の加害者になり得るケースであった。また、バイクによる事故が2件あり、これも重大事故にはならなかったが、今後安全指導を徹底したい。</p> <p>全校で実施する交通教室を7月・12月に計画し、交通立ち番指導においては自転車の左側通行を重点に指導した。また、PTAと連携を取り、学期ごとに学年を割り振り、学校正門での立ち番をクラスごとに実施した。信号無視や携帯電話を所持しながらの自転車運転、右側通行、併走等も目につく。このままでは、これからも重大事故の発生する可能性は否定できない。今後、生徒はもとより、保護者やPTAとの連携を尚一層強化し、交通マナーの改善、事故防止に取り組みたい。</p>					

【項目2について】

施設面では、事務部を中心に校内の施設設備の点検を行い、不備な箇所については計画的に整備をしてきた。その他、生徒たちが課題研究で校舎通路の側溝蓋を作成するなど、生徒の安全意識の高揚も見られるようになった。しかし、校内外でのゴミのポイ捨てや教室等の清掃に関して不十分な箇所もあり、今後も美化意識の高揚に取り組んでいかなければならない。

【項目3について】

情報管理については、今年度も総務部が一括して管理し、ホームページも定期的に更新している。ただ、更新に関してはまだ不十分と言わざるを得ず、できる限りタイムリーに更新できるよう体制を整えたい。また、今年度から県の防災メール（保護者の登録数216人）を使って緊急連絡や行事変更等の内容も配信しているが、登録者がまだ少ない現状は課題である。

本校からの情報発信に関して、今年度新たに「都工新聞」を作成し、生徒募集や外部に向けたPR活動の際に利用している。年度途中からの作成であったが、中学校等からも高い評価を受けており、来年度はさらに充実させていきたい。

【項目4について】

今年度職員の授業力向上と生徒の授業マナー改善を目指し、新たに学習支援部を設置した。授業改善の一環として、6月と11月に研究授業週間を設けている。各教科・学科の代表者が授業を行い、その後必ず事後研修を実施することにした。今年度はタブレット端末が導入されたこともあり、ICTを活用した授業展開を意識的に行ったが、ICT技術を使うことが目的ではなく、生徒の学習意欲や基礎学力向上のためにICT技術を利用することを確認していく必要がある。また、2学期期末考査終了後には、生徒を対象に「授業に関するアンケート」を実施した。「アンケート」の結果をもとに各教科・学科で授業改善に関する研修を実施しているが、少しずつ成果が上がっている。

資格取得においては一昨年、昨年に比べると全国工業高等学校長会のジュニアマイスター取得者の数が減少している。原因がどこにあるのかを分析し、来年度に向けて指導体制の確認をしたい。

【項目5について】

今年度もキャリア教育の一環として、インターンシップや企業視察、外部講師による講話を実施した。就職希望者のうち、第一希望の企業に内定したものが、昨年度は90%だったが、今年度は91.6%の結果を残すことができた。就職内定先も、優良企業といわれるような企業に昨年度以上に内定している。また、公務員に関しても11名の合格者を出し、少しずつではあるが、キャリア教育の成果がでているものと思われる。

【項目6について】

人権教育の学習内容は、いじめ、ネット上のいじめ、偏見や差別、部落差別、進路保障に係る内容を中心に、各学年とも各学期1回ずつ実施した。そこでは、明確ないじめや暴力等は確認していないが、いじめに繋がる可能性のある「からかい」等を数件確認し、早期の対応をしてきた。その他、携帯電話による生徒間や第三者へのトラブル等が目立つようになってきた。これからも、保護者の協力を得ながら携帯電話の利用のあり方については指導をしていきたい。

道徳教育についても、授業や特別活動等、いろいろな機会を捉えて指導にあたっている。特に、本校は工業高校であるので、生徒たちには、「ものづくりは、こころづくり」ということを強調している。引き続き「心豊かでたくましい人材の育成」に努めていきたい。

【項目7について】

現在、運動系、文化系、技術系、合わせて29の部が年間を通して活動している。そのなかで、今年度も多くの部活動が県内各種大会において上位の成績を上げることができた。特に、全国高校総体で少林寺拳法部が男子組演武2位、本県で開催された「高校生ものづくりコンテスト全国大会」では化学工業科の生徒が全国2位に入るなど優秀な成績を収めてくれた。

【項目8について】

今年度も、コンプライアンスに係る研修、救急法、人権に関する研修、授業改善についての研修、進路指導に関する研修、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント防止に関する研修、生徒と職員を対象にした防災教室等を実施した。また、教職員の資質能力と学校の教育力向上を目指してOJTの推進を呼びかけてきた。今後、更なる教職員の資質向上に努めていきたい。